

北区の部屋だより

第71号

2015年6月



刊行物登録番号 26-2-057

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 27 年 6 月発行

北区こぼれ話 第70回

北区で確認される地方の歴史資料 ～「東京」という地域の側面～

北区で古文書など歴史資料の整理・保存に携わっていると、思いがけないような遠隔地の歴史資料に出会うことがあります。例えば、北区で初めて悉皆的な歴史資料の調査が行われた区史編纂の折には、西ヶ原に在住する区民の方の所蔵資料として、信濃国飯山城下（現在の長野県飯山市）の商家の古文書を整理しました（詳しくは、『文化財研究紀要』5号、1991年をみてください）。区史編纂以降もたびたび遠隔地の歴史資料が確認されており、やはり西ヶ原在住の方が所持していた山梨県都留郡明見村（現在の山梨県富士吉田市）に関する資料や、豊島在住の方は、信濃国筑摩郡南熊井村（現在の長野県塩尻市）の名主家の系譜をひく家で、江戸時代の同村の古文書約350点を所持していました。

こうした歴史資料は、一点一点中性紙の封筒に詰めるとともに、内容を確認して目録データの採録を行い、所蔵者向けの簡単な解説書を作成するなど、北区の古文書と同様の整理を行った後、所蔵者へと返却しています。加えて、調査成果については、当該地域の資料保存機関等にも送り、情報の共有化を図っています。

このように記すと、何故、北区に関係のない歴史資料の整理を行っているのか不思議に思う方もいらっしゃるかも知れませんが、区民の方が長い間にわたって大切に保管してきたものであり、これをさらなる保存に堪えられるよう一定の措置を講じることは、区民対応といった観点からも必要であるとの考えによります。そして何より、歴史資料自体、それがどこにあらうと貴重な歴史的・文化的遺産であることに間違いはないからです。

歴史資料というと、当然、当該地域に古くから住んでいる旧家などに残されているものと考えがちです。そして、それは概ね間違っていないのですが、全国から人口が流入してくる「東京」という地域を考えた場合、実は各地から古文書など歴史資料を所持したまま越してくる家が少なからず存在しているのです。

北区の歴史に直接関係のない資料のため、区民の方々へ紹介する機会はほとんどありませんが、区内からは北区に関するもの以外の歴史資料が幾度となく確認されています。これが「東京」という地域であり、「東京」の歴史資料の側面なのです。

皆様のお宅にも眠っているかも？！
ぜひご一報ください

【北区の部屋・地域資料専門員 保垣孝幸】

今月の展示



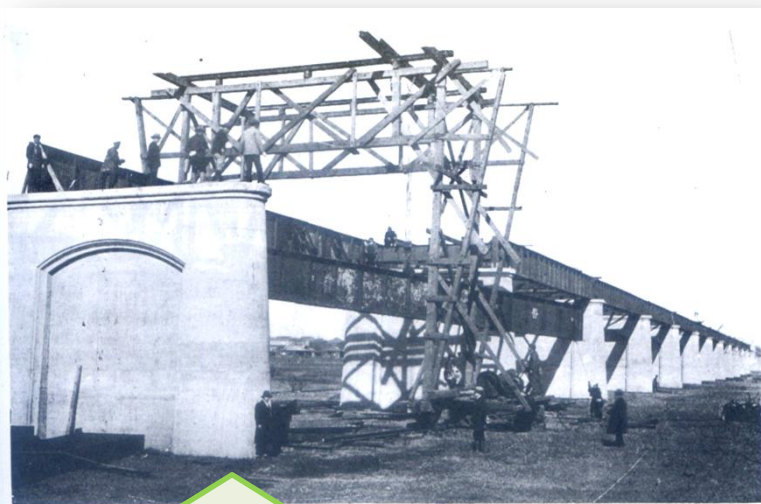
テーマ：昭和の大プロジェクト

ー『土木建築工事画報』に見る赤羽・王子・田端ー

期間：平成27年5月29日（金）～6月24日（水）

場所：「北区の部屋」展示コーナー

土木建築の大プロジェクトの記録をぜひお楽しみ下さい。素材は、知る人ぞ知る『土木建築工事画報』掲載の図版類です。昭和の橋や鉄道、工場やダムが好きなら必読の書です。この雑誌は、大正14年（1925）年2月から昭和15年（1940）9月まで発行されました。北区立中央図書館では、地域資料として全巻を所蔵しています。その内容は、施工記録が中心で、なんと写真の数は約1万枚、図面は約3000点と膨大な量を誇ります。



『土木建築工事画報』第4巻11号（昭和3年11月）
「新荒川大橋架設工事」より

「北区の部屋」デジタルアーカイブの紹介

北区の部屋では、許諾の取れた地域新聞や行政関係の刊行物、中央図書館所蔵の古い写真をデジタル化した画像がご覧いただけます。

（専用パソコンでの閲覧のみ）

これらの地元ならではの資料は、当時の北区を知ることが出来る貴重な資料となっています。お気軽にご利用ください。

公開している資料

- ① 北区の部屋管理の写真（よく利用される写真の表と画像）
- ② 王子法人会の刊行物（王子法人会だより・周年誌）
- ③ 都北新聞バックナンバー（1962～2011、欠号あり）
- ④ 北区文化振興財団の刊行物（情報誌「コンパス」の一部）
- ⑤ 北区商店街連合会の刊行物（北区商連・北区商業名鑑）
- ⑥ 商工会議所北支部の刊行物（北区時間）
- ⑦ 産業振興課（新しい風・北のムーブメント・名品ガイド・各種調査報告書）



北区内の会社の社史・産業団体史を集めています！



中央図書館と北区図書館活動区民の会・地域資料部会が協働で、北区で活動する会社や工場、団体などの発行する資料を地域資料として収集しています。北区関連の社史や周年誌などのご寄贈をお願いします。

【お問い合わせ及び寄贈先】

〒114-0033 北区十条台1-2-5
北区立中央図書館 北区の部屋
電話 03-5993-1125(代)

北区の部屋だより

第72号

2015年7月



刊行物登録番号 26-2-057

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 27 年 7 月発行

北区ごぼれ話 第71回

しんぶつぶんりれい 神仏分離令が神社の名前を変えた ～ごすてんのうしや やくも ～牛頭天王社から八雲神社へ～

7月になると、京都をはじめ、いろいろな地域で祇園祭^{ぎおんまつり}が執り行われます。ところで「祇園」とは何でしょうか。平家物語に「祇園精舎^{ぎおんしうじや}の鐘^{かね}の声、諸行無常^{しよぎやうむじやう}の響きあり」という有名な一節があります。祇園という言葉は、祇園精舎から来ています。祇園精舎とは、お釈迦様が説法をしたインドの寺院の名です。そして、祇園精舎を守る仏様が、牛頭天王^{ごすてんのう}です。かつて、祇園祭は牛頭天王の祭りだったのです。地域によって、祇園祭のことを天王祭や天王様と呼ぶのはこのためです。

しかし、現在、祇園祭は素戔鳴尊^{すさのおのみこと}の祭りとされています。これは、どういうことなのでしょう。江戸時代までの日本は、神仏習合^{しんぶつしゅうごう}の時代でした。「本地垂迹説^{ほんちすいじやくせつ}」と言って、仏が神となって日本に現れたという説が支配的でした。例えば、大日如来が天照大神^{だいにとにょらい}として現れ、牛頭天王が素戔鳴尊として降臨^{こうりん}したという説です。つまり、牛頭天王と素戔鳴尊は江戸時代まで同じものと考えられていたのです。

1868年（慶応4・明治1）明治新政府は「神仏分離令^{しんぶつぶんぜんれい}」（神仏判然令）を発しました。神社と寺院の分離を命じただけでなく、神社の名前に「権現^{ごんげん}」や「牛頭天王」などの仏教用語を使うことも禁じました。これを受け、京都の祇園社は、八坂神社に名を変え、御祭神^{ごさいじん}については、それまでの牛頭天王から素戔鳴尊へ変更しました。

かつて、江戸時代の岩淵宿^{いわぶちしゆく}には、鎮守^{ちんじゆ}の牛頭天王社がありました。江戸時代の地誌『新編武蔵風土記稿^{しんぺんむさしふどきこう}』の岩淵宿のところには「牛頭天王社 宿ノ鎮守トス、正光寺持^{しやうこうじもち}」とあります。明治の神仏分離により、牛頭天王社は正光寺と切り離されただけでなく、名前の変更も必要とされました。そして何より、仏様である牛頭天王を御祭神のままにしておくこともできませんでした。そこで、名前を「八雲神社」に変え、御祭神を素戔鳴尊としたのです。

八雲とは、神話の中で、素戔鳴尊が歌ったとされる「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠に 八重垣つくる その八重垣を」から来ています。ヤマタノオロチを退治した後、奇稲田姫^{くしなだひめ}との結婚を喜ぶ歌です。日本最古の短歌とされ、もともと出雲地方の民謡だったのではないかとされています。

十条にも八雲神社があります。『新編武蔵風土記稿』の「十条村」のところに「牛頭天王社 西音寺持^{さいおんじもち}」とあるのが、この八雲神社のことです。北区と同様に、全国各地にある八雲神社・八坂神社・須賀神社^{すが}などのうち、その多くは、神仏分離令により、牛頭天王社や祇園社から名前を変更させられたという歴史を持つのです。

【北区の部屋・地域資料専門員 黒川徳男】



岩淵町の八雲神社

今月の展示



テーマ：科学が育むお酒の世界

～滝野川と醸造試験所～

期間：平成27年6月26日（金）～7月22日（水）

場所：「北区の部屋」展示コーナー

6月13日に中央図書館で開催した、北区図書館活動区民の会地域資料部企画・運営の歴史講演会「科学が育むお酒の世界～滝野川と醸造試験所～」の関連展示を行います。

滝野川の赤レンガ酒造工場（旧醸造試験所第一工場）は、昨年、国の重要文化財（建造物）の指定を受けました。お酒のことや、赤レンガ工場の歴史、建物の特色などを紹介します。

今月は、北区図書館活動区民の会・地域資料部が企画・製作した展示です。

「北区の歴史 はじめの一步」全7冊販売中

北区の部屋で販売しています！

北区を7地区（赤羽東・赤羽西・王子東・王子西・滝野川東・滝野川西・浮間地区）に分けて、それぞれの地域の歴史について解説した入門書です。写真や図版を多く取り入れ、小学生にも分かりやすい内容です。巻末の地域マップは史跡散歩にもお役に立ちます。

ふるさと北区の歴史をぜひお楽しみください。

北区立図書館で貸出しているほか、下記で販売しています。

販売価格：1冊 300円

中央・滝野川・赤羽図書館、飛鳥山博物館、
北区役所第一庁舎区政資料室



※毎年、該当地区の区立小学校3年生を対象に無償配布をしています。

平和図書コーナーを開催します！



北区平和祈念週間イベントが8月4日（火）から8月6日（木）、北とぴあで開催されます。図書館では、平和祈念週間に関連して「平和図書コーナー」を設けますので、平和について考えるきっかけとしていただきたいと思います。

「平和図書コーナー」：中央・滝野川・赤羽図書館にて

「子ども向け平和図書コーナー」北区立図書館全館にて

開催期間：7月24日（金）～8月30日（日）（休館日を除く）

※中央図書館は「北区の部屋・地域資料専門員」が選書した資料を、1階入り口正面の柱前にて開催します。

北区の部屋だより

第73号

2015年8月



刊行物登録番号 26-2-057

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 27 年 8 月発行

北区こぼれ話 第72回

水車のある風景 その1 ～石神井川の巨大水車～

コトコト音を立てて回る水車のある景色は、どこか長閑な田園風景を思い起こさせます。江戸時代の北区域にもいくつかの水車がありましたが、その一つ、石神井川に設置されていた水車はとても大規模なもので、小さな水路に架けられていた水車とはまた趣きを異にしていました。

書物の愛蔵家としても知られた雑司ヶ谷在住の幕臣片山賢が、文政7年（1824）3月、滝野川村に設置された水車を見に訪れました。「聞けることく」とあるので江戸でも評判の水車だったのでしょう、「甚だ大ひなり」とその巨大なことに驚きました。また、水車は石神井川の屈曲している岩間の部分を新規に堀割して掛けられたもので、片山は「甚だ切作たくみなり（非常にその細工が巧みである）」と評しています（「寝ぬ夜のすさび」、『北区史資料編近世1』458頁）。

さて、この水車は、文政5年（1822）に滝野川村の弥兵衛が自ら所持する字北山の地所に設置したものでした（別の史料では、牛込肴町弥兵衛ともあります）。現在の位置関係からいうと石神井川沿いにあった岩屋弁天（現在の音無もみじ緑地付近）のやや上流あたりということになりましょうか。弥兵衛は、ここに大規模な水車を設置し、製粉を主な内容とする水車稼ぎを行いました。

それから20年ほど経って持ち主は次右衛門に代わります。その後は持主が転々とし、嘉永年間の頃からは甚平という人物が所持していました。持主が次々と代わっていった理由は、この水車の維持・管理の難しさにあったようです。それというのも水車は、石神井川岸の岩間を掘削した「難渋之場所」にあって破損が絶えず、年に3～4回は修繕が必要で、その費用も毎年200～300両かかっていたといいます。それでも甚平は丹精込めて手を加えて整備を進め、元治元年（1864）頃には「関東一」の水車場であると自負するまでに至りました。これだけの水車ですので、毎日白米を250俵から、急ぎの場合は300俵ほど舂き、年の売り上げは慶応元年（1865）で金2,200両、翌2年には金2,600両ほどにもなっていました（「旧滝野川村 戸部家文書」）。

こうしたなかで、江戸時代も最末期、慶応3年（1867）になって、幕府はこの水車に目を付け、火薬製造のためにこの水車場を御用地として召し上げていくのでした。その辺りの話しは、次号以降、その2で詳しく紹介します。

【北区の部屋・地域資料専門員 保垣孝幸】

今月の展示

テーマ： 戦後70年に振り返る 陸軍の工場で働いた女性たち

期 間：7月24日(金)～8月26日(水)

場 所：北区の部屋展示コーナー



陸軍造兵廠保育所卒園の記念写真(米堂常茂氏提供)

この写真は、戦前、陸軍造兵廠本部事務所(現、中央公園文化センター)の前で撮影されたものです。十条の兵器工場には、多くの女性従業員が勤務しており、なんと保育所が設置されていたのです。今回、北区の部屋では、区内の陸軍工廠で働いていた女性についての展示をします。

兵器工場だった赤レンガ建築。そして、兵器工場に勤務していた女性たちについての展示。それを通して、戦後70年を迎える夏に、平和について考えてみませんか。

映像でよみがえる昭和の北区／第6回上映会

映像と写真でめぐる十条の今と昔 ～十条銀座・お富士さん・阿波踊り～

失われつつある北区の昔の風景や暮らしを発掘・公開することを目的に収集したフィルムの上映会です。

懐かしい北区の映像と地域資料専門員の解説をお楽しみください。

日時：9月26日(土) 午後2時から3時30分

場所：中央図書館 3階ホール

解説：黒川徳男・保垣孝幸 両地域資料専門員

定員：60名(抽選)

申込方法：8月20日(木)から受付開始。

往復はがき、または右記ホームページに

住所、氏名、年齢・連絡先(電話番号・ファクス番号)

を記入して9月14日(月)(必着)まで。

北区政策提案協働事業

映像アーカイブによる街おこし



※昔の北区が映っている8ミリ・16ミリフィルムをお持ちの方は、その旨お書きください。DVD化のご相談もお受けします。

申込先：〒115-0045 赤羽1-7-9

赤羽Metsビル 7階

街づくり・フロンティア21「十条の今と昔」
係

電話 03-3903-1171

HP：<http://www.frontier21.jp.net/>

中央図書館
「北区の部屋」では、
北区の歴史に
関わる資料を
探しています！

皆さんのお宅に、北区に関わる古い写真や地図・文書などは眠っていませんか？
中央図書館「北区の部屋」では、このような資料を地域資料として収集しています。
江戸・明治期だけでなく、大正・昭和の資料も地域を知るための大変貴重な資料となりますので、ぜひご一報ください。

北区の部屋だより

第74号

2015年9月



刊行物登録番号 26-2-057

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 27 年 9 月発行

北区こぼれ話

第73回

東京初空襲の焼夷弾を陸軍造兵廠火薬研究所が調査 その意外な結論とは…



防衛省防衛研究所戦史研究センター史料室に「火研 調査報告十七号

日本空襲二用ヒタル米国製焼夷弾ニ就テ」（登録番号：本土・全般 174）という資料が保存されています。昭和 17 年(1942) 4 月に「東京第二陸軍造兵廠研究所」の名で作成された報告書です。東京第二陸軍造兵廠は、現在の北区十条台二丁目から板橋区加賀にかけて、広大な敷地を有していた火薬工場でした。その中に火薬研究所という機関がありました。調査報告の「火研」とは、この研究所のことです。火研の建物は板橋区域にあり、戦後は民間の野口研究所として使用されました。

調査報告の諸言には「昭和十七年四月十八日京浜地方を襲撃せる米軍機が投下せる焼夷弾を入手調査せるを以て此処に其の性能及機能の概要を報告し参考に資せんとす」とあります。京浜地方の襲撃とは「ドーリットル空襲」と呼ばれる最初の東京空襲のことです。空母から飛び立った B25 中型爆撃機 16 機による奇襲でした。東京市北部では、赤羽駅の南東や荒川区尾久町が空襲を受けました。尾久町では 10 名が亡くなり、日本全体で合計 87 名が死亡しました。

焼夷弾は、爆弾とは異なり、六角形等の断面をした筒形で、火を噴き出して火事を起こす仕組みになっていました。火研が調査したものは、全長 53.6 cm のエレクトロン焼夷弾でした。エレクトロンは、マグネシウムを主原料とする物質で、信管(起爆装置)に用いられました。照明弾のように、燃焼時に白く発光します。鉄製の剤筒(本体)にはテルミット(アルミニウム粉末と金属酸化物)が充填されていました。テルミットは激しい燃焼(テルミット反応)により高熱を発生します。火研では、構造や成分を分析したほか、木造家屋に対する貫通力を試し、また、実際に発火させるなどの実験をおこないました。なお、後の本格的な空襲では、ほかに大量の油脂焼夷弾が使用されました。油脂焼夷弾の中には、ガソリンやパーマヤシの油を混ぜてゼリー状にしたものが充填されていました。

調査報告には「結言」という結論部分があります。それによれば、点火初期には「手を以て之を除去する事も可能なる程度にして砂又は筵等を以てせば容易に消火し得」とあります。そして「沈着に動作する時は決して恐ろしきものに非ず従来訓練せる消火法により簡単に消火し得るものとす」と結論づけています。確かに、ご高齢の方から「家の中に落ちてきた焼夷弾を庭へ放り投げた」というお話を聞いたことがあります。このように、調査報告は、家庭や地域の力で消火可能な、限定的かつ小規模の空襲を想定しています。

東京初空襲から約 3 年後の東京大空襲までの間、戦況は、調査報告の想定外の変化します。昭和 19 年、米軍は、サイパンを占領して航空基地の使用を開始し、B29 大型爆撃機を投入しました。東京までの往復飛行が可能になったのです。そして、昭和 20 年、標的を軍事施設や軍需工場に限定するという方針を変更し、都市への無差別空襲を開始しました。もはや、調査報告にあるような消火活動をおこなう余地はありませんでした。

(引用文中のカタカナや歴史的仮名づかいは、現代的用法に改めました。)

【北区の部屋・地域資料専門員 黒川徳男】

今月の展示



「北区区政 10 周年記念 躍進する北区」

～中央図書館所蔵 DVD 紹介～

期 間:8月28日(金)～9月23日(水)

場 所:北区の部屋 企画展示コーナー

北区立中央図書館では、古い北区の映像を所蔵しており、その一部は DVD 化され、誰でも利用できるようになっていきます(貸出し出来ます)。

今回の展示では、こうした資料を紹介するとともに、懐かしい北区の風景をご覧いただきます。

～北区政策提案協働事業 映像アーカイブによる街おこし～

映像でよみがえる昭和の北区／第6回上映会 映像と写真でめぐる十条の今と昔 ～十条銀座・お富士さん・阿波踊り～

日時: 9月26日(土) 午後2時～3時30分

場所: 中央図書館 3階ホール

解説: 黒川徳男・保垣孝幸 両地域資料専門員

定員: 60名(抽選)

申込方法: 往復はがき、または下記ホームページに
住所、氏名、年齢・連絡先(電話番号・ファクス番号)
を記入してお申込みください。

締切: 9月14日(月)(必着)

申込先: 〒115-0045 赤羽1-7-9

赤羽Metsビル 7階

街づくり・フロンティア21「十条の今と昔」係

電話: 03-3903-1171

HP: <http://www.frontier21.jp.net/>



※昔の北区が映っている8ミリ・16ミリフィルムをお持ちの方は、その旨お書きください。DVD化のご相談もお受けします。

DVD を貸出しています!



北区の部屋では、書籍はもちろん、北区に関する DVD も所蔵しています。北区役所が発行したものや北区を紹介するものを所蔵、貸出しています。ぜひ皆様も一度お借りになってみてください。



北区の部屋だより

第75号

2015年10月



刊行物登録番号 25-2-070

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 27 年 10 月発行

北区こぼれ話 第74回

水車のある風景 その2 ～滝野川火薬製造所～

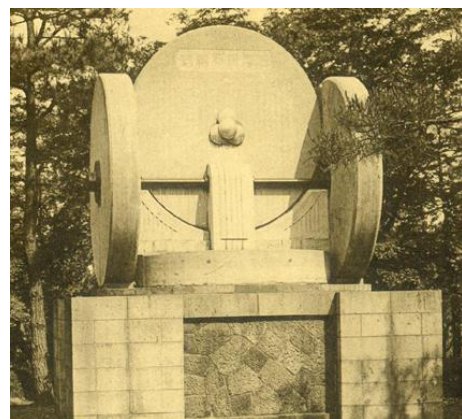
前々回に引き続き滝野川村にあった水車^{すいしや}の話です。自称「関東一」を誇った甚平^{じんぺい}の水車は、慶応3年（1867）に御用地^{ごようち}として召し上げられ、幕府はここに火薬製造所を設置しようと計画しました。

ここで少し、この火薬製造所について紹介しておきましょう。北区の幕末軍事施設というと、同じく滝野川村に設置された大砲製造所、すなわち「反射炉御場所」^{はんしやろ おぼしよ}（現在の醸造試験所跡地公園付近）が有名ですが、石神井川沿いにもう一つ軍事施設がありました。それがこの火薬製造所です。工事が開始されたこの年に幕府自身が倒壊してしまうので実際に稼働することはなかったものと思われていますが、これが実現していれば滝野川村は幕府の一大軍事拠点となっていたことでしょう。これまで『北区史』などでもあまり取り上げられてこなかったのが大砲製造所と混同して記述しているものも見受けられますが、設置された場所も違います。火薬製造所は、石神井川沿いにあった岩屋弁財天^{いわや べんざいてん}の上流 20間（約 36m）ほどのところで、現在の滝野川 3 丁目にある都営アパート付近に想定されます。御用地となった場所は、実に 1 万 3000 坪にもおよびました。

では、なぜ水車が必要だったのでしょうか。そもそも銃砲に使用する黒色火薬は、硫黄と木炭を混ぜ、これに硝石^{しょうせき}を加えて作ります。そして、この混合剤を圧磨機^{あつまき}の盤上に敷き、水を注ぎながら圧輪^{あつりん}を回転させて圧磨作業を行います。この圧輪を動かすために水力、すなわち水車が利用されるのです。

火薬という物質の性質上、当然、その用地は江戸郊外に求められますが、石神井川にはちょうど甚平の巨大水車がありました。以前に大砲製造所を建設した際には、幕府は新たな水路^{かいきく}を開削して水車を設置しましたが、実際に稼働している適当な水車があれば、それごと御用地として召し上げた方がいいと判断したのでしよう。甚平の水車は、居屋敷、周囲の地所ともども火薬製造所御用地として召し上げられることとなったのです。

とはいえ、甚平としてもただ黙って取り上げられるわけにはいきません。当然、営業損失の補填^{ほてん}や新たな水車建設費用、代替地などを幕府側に求めていくこととなります。この話は、また次回に。



「火薬製造創始記念碑」の圧輪
（『造兵廠火工廠絵葉書』）

【北区の部屋・地域資料専門員 保垣孝幸】

今月の展示



テーマ：国電王子駅改札水没す 昭和30・40年代の水害

期間：平成27年9月25日（金）～10月21日（水）

場所：「北区の部屋」展示コーナー

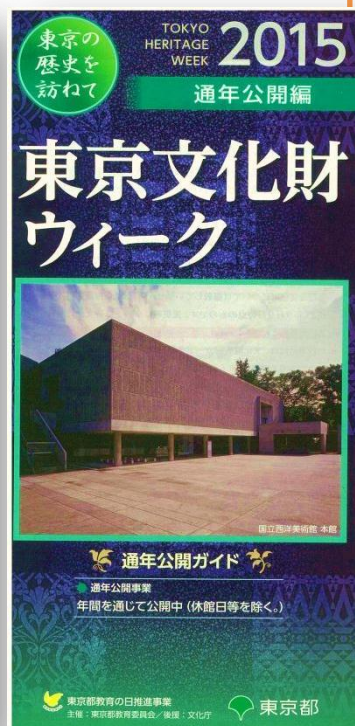
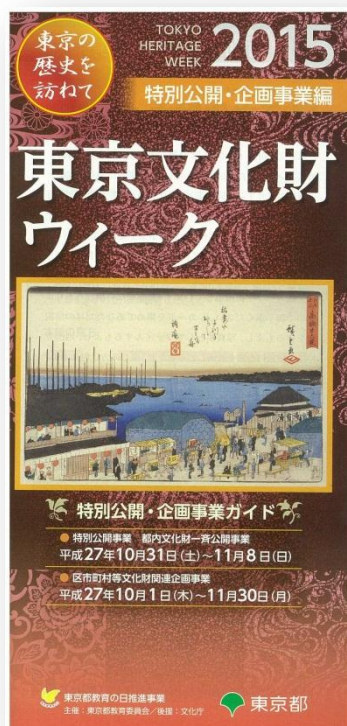
昭和30年代、都市化や道路の舗装により、東京を流れる中小河川の水量が増加しました。そして、昭和33年9月26日、狩野川台風（台風22号）による豪雨は、北区に大きな被害をもたらしました。今月は、北区の水害についてご紹介します。

東京文化財ウィーク2015

東京都教育委員会は11月3日文化の日を中心に、都民の皆さまに文化財を身近に感じていただくことを目的に、都内全域の文化財の公開や文化財に関わる様々な事業を実施する『東京文化財ウィーク2015』を開催します。

中央・滝野川・赤羽図書館で、ガイドブックを配布中です。北区の催し物や通年公開の資料の情報等も掲載されていますので、ぜひご覧ください。

（ガイドブック配布は在庫が終わり次第終了です）



公開歴史講座 70年前の戦争そして占領 —区民の記録と軍の記録—



戦争中や占領下に、家庭や疎開先、工場などで書かれた日記や手紙。軍が残した公文書。それらの史料から、北区民にとっての昭和史を読み解きます。

日時：11月28日（土）午後2時から4時

場所：中央図書館 3階ホール

講師：黒川徳男地域資料専門員（日本近代史研究家）

定員：50名（中学生以上）（抽選）

区内在住、在勤優先

申込方法：往復はがきに、講座名、氏名（ふりがな）、郵便番号、住所、年齢、電話番号（Fax番号）在勤の方は、勤務先名称・住所、返信面に住所、氏名をご記入の上、下記まで。

11月10日（火）必着。

※視覚障害のある方は電話申込可。

※聴覚障害のある方はファクス申込可。

※手話通訳が必要な方は事前にご連絡ください。

申込先・問い合わせ先

〒114-0033 北区十条台1-2-5

北区立中央図書館 事業係

TEL03-5993-1125 Fax03-5993-1044

（北区ニュース10/20日号もご覧ください）

高木助一郎日記
（当館所蔵）

